

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報第 1 号～8 号	5 日、9 日、13 日、 16 日、19 日、23 日、 26 日、30 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。 現地調査の状況。
吾妻山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 1 号～4 号、 第 7 号～10 号、第 12 号	2 日、5 日、9 日、 13 日、16 日、19 日、23 日、26 日、 30 日 16 時 00 分	噴煙・微動の状況、地震回数等火 山活動の状況。
		解説情報第 5 号～6 号	14 日 11 時 30 分 15 日 10 時 30 分	14 日に急増した火山性地震の状況 及びその後の状況等。
		火山活動解説資料	14 日 16 時 30 分	14 日に急増した火山性地震の状況 等。同日に実施した上空からの観 測結果。
		解説情報第 11 号	28 日 10 時 00 分	28 日の火山性微動の状況。
		火山活動解説資料	29 日 16 時 30 分	28 日の火山性微動等の状況。29 日 に実施した上空からの観測結果。
草津白根山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 1 号～5 号	2 日、9 日、16 日、 23 日、30 日 16 時 00 分	地震回数等火山活動の状況。
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 1 号～8 号	5 日、9 日、13 日、 16 日、19 日、23 日、 26 日、30 日 16 時 00 分	噴火・降灰等噴火活動の状況。孤 立型微動・火山性地震等の状況。 現地調査の状況。
		降灰予報	7 日 14 時 47 分 13 日 03 時 40 分 13 日 09 時 08 分 13 日 15 時 12 分 20 日 17 時 20 分 20 日 21 時 12 分	噴火に伴い、降灰が予想される地 域を発表。
霧島山(えび の高原(硫黄 山)付近)	火口周辺警報 (火口周辺危険)	解説情報第 1 号～8 号	5 日、9 日、13 日、 16 日、19 日、23 日、 26 日、30 日 16 時 00 分	地震回数等火山活動の状況。現地 調査の状況

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

この他、三宅島においては毎日 07 時と 17 時に火山ガス予報を発表している。

各火山の 1 月の活動解説

【北海道地方】

雌阿寒岳めあかんだけ [噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

全磁力連続観測によると、ボンマチネシリ 96-1 火口南側の地下で温度の上った状態が継続している可能性がある。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

十勝岳とからだけ [火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

5 日に北海道警察が撮影した上空からの映像の解析、19 日に実施した上空からの観測(北海道警察の協力による)では、融雪域や赤外熱映

像⁴⁾ から 62-2 火口内でわずかな地熱域の拡大が認められたが、噴煙の状況に特段の変化はなかった。また、その他の火口では、地熱域⁴⁾ や噴煙の状況に特段の変化は認められなかった。

26 日に 62-2 火口付近のごく浅い所を震源とする火山性地震が一時的に増加したが、遠望カメラでは特段の変化は認められなかった。

十勝岳では、2006 年から 62-2 火口浅部の膨張を示すとみられる地殻変動が継続しているが、2014 年 7 月頃から、その変化率が大きくなっており、膨張がさらに浅い領域にまで及んでいる可能性がある。山体浅部の熱水活動の活発化を示すと考えられる常時微動の振幅レベルは、11 月頃から増大がみられている。このことから、引き続きごく小規模な水蒸気噴火の発生する可能性が高まっていると考えられる。

十勝岳では、ここ数年、山体浅部の膨張や大

正火口の噴煙量増加および地震増加、火山性微動の発生、発光現象などが観測されており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にあるが、マグマ噴火が発生する兆候は認められない。

62-2火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。62-2火口から概ね 1 km の外側であっても、風下側では火山灰や小さな噴石¹⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

たるまえん **樽前山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]**

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサスプリ [噴火予報 (平常)]

たいせつざん
大雪山 [噴火予報 (平常)]

くつたら
倶多楽 [噴火予報 (平常)]

うすざん
有珠山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

ほっかいどうこまがたけ
北海道駒ヶ岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

えざん
恵山 [噴火予報 (平常)]

【東北地方】

はっこうざん **八甲田山 [噴火予報 (平常)]**

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動も観測されなかった。2013年4月から7月にかけて増加した、大岳山頂直下の地震活動は低調ながら継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

いわてざん **岩手山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]**

火山活動は概ね静穏に経過した。火山性地震が一時的に増加することもあるが、その他の火山活動に変化はなく、噴火の兆候は認められない。

あきたこまがたけ **秋田駒ヶ岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]**

地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも変化はみられないが、女岳^{めだけ}では、2009年から拡大している噴気や地熱域が引き続きみられており、地熱活動が継続しているため今後の火山活動の推移に注意が必要である。

さおうざん **蔵王山 [噴火予報 (平常)]**

14日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、御釜は凍結しており、御釜周辺に噴気及び地熱域はみられなかった。また、丸山沢噴気地熱地帯の噴気と地熱域の状況にも、前回の観測（2014年11月20日）と比較して大きな変化はなかった。

19日に火山性微動が1回発生した。火山性微動発生前後の地震活動に変化はみられず、坊平観測点（山頂の南西約5km）の傾斜計²⁾でも変化はみられなかった。火山性地震は6回と、少ない状況で経過した。

傾斜計²⁾では、今期間、南東上がりの変化が続いている。

GNSS³⁾による地殻変動と噴気活動に特段の変化はみられない。

2014年8月以降、火山活動の高まりがみられ、過去の活動期には、突発的な噴気孔の生成や、火山ガスの噴出等の現象があったことから、登山等で火口に近づく際には十分注意が必要である。

あづまやま **吾妻山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]**

14日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、前回（2014年1月20日）の観測と比較して、2013年から2014年にかけて地熱域⁴⁾の拡大がみられた領域で、引き続きわずかな拡大が確認された。また、大穴火口の北側で狭い新たな地熱域が確認された。

29日に福島県警察本部の協力により実施した上空からの観測では、14日と比較して、大穴火口北西側の噴気孔周辺で硫黄昇華物と思われる黄変色域のわずかな拡大を確認した。

浄土平の火口カメラ（東北地方整備局設置）及び上野寺の遠望カメラでは、大穴火口とその付近の噴気の状況に異常は認められない。

28日08時15分頃に継続時間が約2分50秒の火山性微動が発生した。浄土平（大穴火口の東南東約1km）の傾斜計²⁾では、火山性微動に伴い、一時的に西側（火口方向）が下がる変動がみられ、その後もとの状態に戻った。火山性地震は2014年12月7日頃から1月17日にかけて、増減を繰り返しながら多い状態で推移し、14日には一日あたり193回とさらに増加した。また、振幅のやや大きな地震も発生するなど、地震活動は活発な状態になっている。震源はこれまでと同様に大穴火口直下付近の浅い所と推定される。

浄土平（大穴火口の東南東約1km）の傾斜計では、2014年4月以降、緩やかな西側上がり傾向で経過しているが、1月26日以降はその変化

率が大きくなっている。

GNSS³⁾ 連続観測では、2014 年 9 月頃から一切経山南山腹観測点（大穴火口の北約 500m）が関係する基線で緩やかな変化がみられており、一切経山付近の膨張を示唆している可能性が考えられる。

大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ に警戒が必要である。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾、火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん

岩木山 [噴火予報（平常）]

あきたやけやま

秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ちよかいさん

鳥海山 [噴火予報（平常）]

くりこまやま

栗駒山 [噴火予報（平常）]

あだたらやま

安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ばんだいさん

磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

くさつしらねさん

草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていたが、8 月 20 日以降やや少ない状態で経過している。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7 月以降停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石¹⁾ が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

あさまやま

浅間山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

8 日及び 21 日に実施した現地調査では、山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、1 日あたり

200 トン（前回 2014 年 12 月 24 日：200 トン）とやや少ない状態であった。

このほか、火山活動に特段の変化はなく、山頂火口から 500m を超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、山頂火口から 500m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰の噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

みだがはら

弥陀ヶ原 [噴火予報（平常）]

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

おんたけさん

御嶽山 [噴火予報（噴火警戒レベル 3、入山規制）] ← 1 月 19 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル 3（入山規制）を切替え

御嶽山では、火山活動が引き続き低下してきており、2014 年 9 月 27 日と同程度ないし上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっている。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。このことから、19 日 17 時 00 分に火口周辺警報を発表して噴火警戒レベル 3（入山規制）を切り替え、大きな噴石の飛散と火砕流に対する警戒が必要な範囲を山頂火口から概ね 3 km に縮小した。

遠望カメラ等による観測では、白色の噴煙が火口縁上 100～300m の高さで経過している。

山麓で実施した現地観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり約 300 トンでやや少ない状態が続いている。

火山性地震は少ない状態で経過しているが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていない。

剣ヶ峰山頂の南東約 3 km に設置している傾斜計²⁾ では、緩やかな山側下がりの変化が続いている。今期間、GNSS³⁾ 連続観測では火山活動によるとみられる特段の変化は認められていないが、国土地理院の GNSS³⁾ データの解析によると、長期的には 2014 年 9 月上旬頃から御嶽山を挟む基線でごくわずかな伸びがみられ、また、9 月下旬頃からごくわずかな縮みの傾向がみられ、12 月までに 9 月上旬頃の基線長に戻っている。

御嶽山では、火口から 3 km 程度の範囲で大きな噴石¹⁾ の飛散や火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾ が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

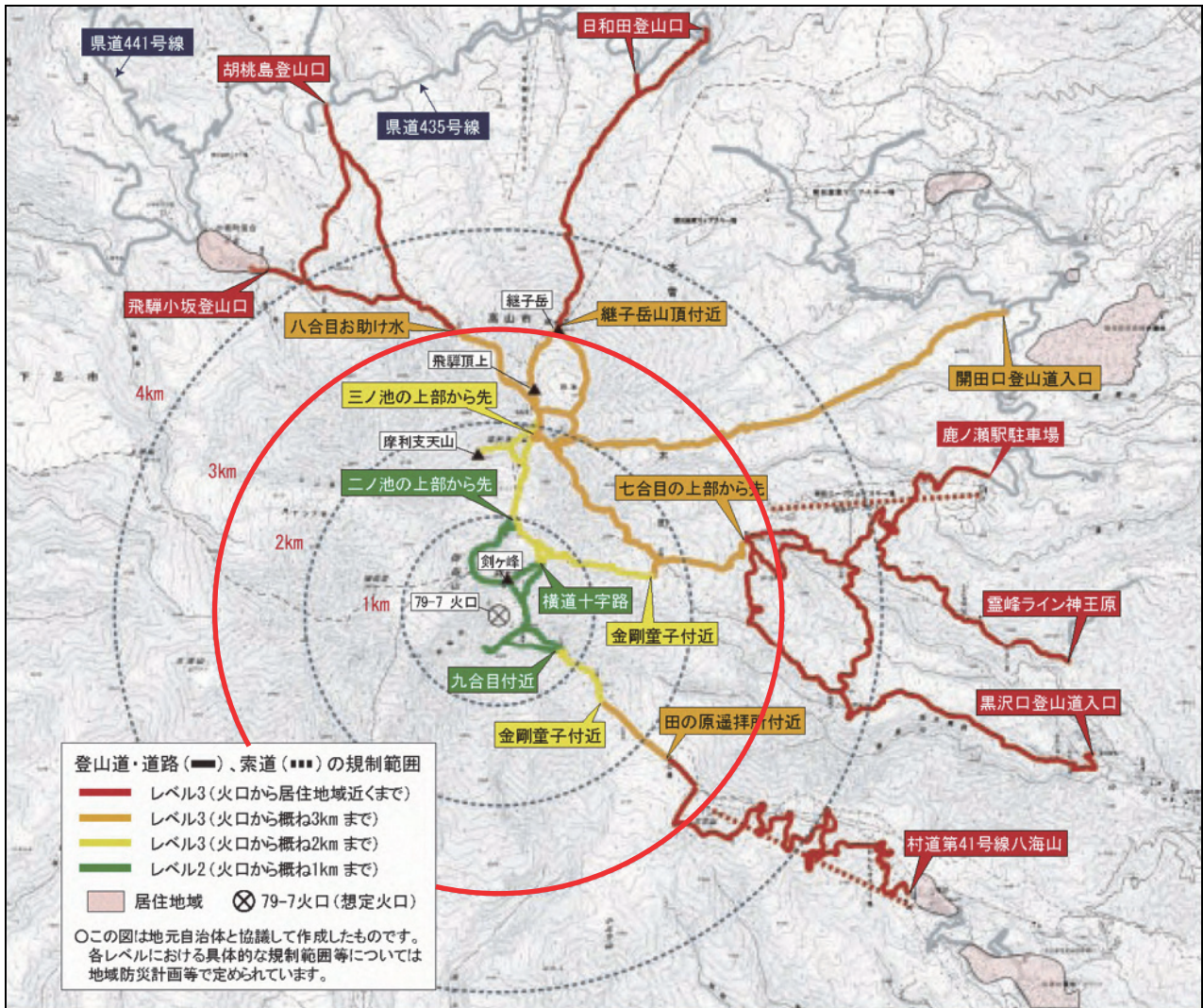


図2 御嶽山 警戒が必要な範囲（赤円：山頂火口から3kmの範囲）

富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

GNSS³⁾連続観測では、地下深部のマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向は、2011年頃から鈍化していたが、2013年8月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意が必要である。

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。7日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり300トン（前回2014年12月15日：400トン）と少ない状態で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。

GNSS³⁾連続観測によると、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。島内の長距離の基線では2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

西之島 [火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩

の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されている。

21 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、第 7 火口で噴火が継続し、灰色の噴煙が高さ約 500m まで上がり西に流れていた。また、溶岩流は島の東側に流出し扇状に広がり、火砕丘東側の麓にも溶岩が露出している所が確認され、青白色の火山性ガスを放出していた。

変色水は、西之島の東岸から北岸及び西岸の旧西之島付近から南側の海岸線に沿って分布しているのが確認された。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがあるので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。また、周辺海域では浮遊物に注意が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや多い状態で経過している。火山性微動は時々発生したが、その他の観測データに異常は認められなかった。

海上自衛隊の協力により、19 日から 20 日にかけて現地調査を実施した。ミリオンダラーホール（旧噴火口）では、前回（2014 年 8 月）の観測に比べて、噴出孔内及びその周辺の地形に顕著な変化は認められず、噴気は観測されなかった。

GNSS³⁾ 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 2 月下旬頃から隆起の傾向、9 月頃から停滞の傾向がみられていたが、12 月上旬頃から再び隆起の傾向となっている。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

27 日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水等は認められなかった。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福德岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想さ

れるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ
那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
にっこうしらねさん
日光白根山 [噴火予報（平常）]
にいがたやけやま
新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
やけだけ
焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
はくさん
白山 [噴火予報（平常）]
のりくらだけ
乗鞍岳 [噴火予報（平常）]
はこねやま
箱根山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
いずとうぶかさんぐん
伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
にいじま
新島 [噴火予報（平常）]
こうづしま
神津島 [噴火予報（平常）]
はちじょうじま
八丈島 [噴火予報（平常）]
あおがしま
青ヶ島 [噴火予報（平常）]

【九州地方及び南西諸島】

くじゅうさん 九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、GNSS³⁾ 連続観測によると一部の基線でわずかに伸びの傾向が認められる。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

あそさん 阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

中岳第一火口では、活発な噴火活動が続いている。連続的な噴火が継続し、13 日には灰色の噴煙が最高で火口縁上 1,300m まで上がった。

13 日夜間に実施した現地調査では、ストロンボリ式噴火を観測し、赤熱した噴石が断続的に火口縁上最大で 300m の高さまで上がるのを確認した。

7 日、9 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 2,500~2,600 トン（12 月：2,000~3,100 トン）と多い状態で経過した。

火山性微動の振幅は、大きい状態で継続した。

GNSS³⁾ 連続観測では、西側の基線にわずかな伸びの傾向が認められ、傾斜計²⁾ では 5 日頃から 9 日頃にかけて、火口方向が隆起する変化（東上がり）が認められた。

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ に警戒が必要である。火口周辺では強風時に小さな

噴石が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

霧島山（新燃岳）まりしまやま しんもえだけ [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

新燃岳火口直下を震源とする地震は少ない状態で経過した。

GNSS³⁾ 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられる。

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過した。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石¹⁾（火山れき⁶⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥石流や土石流に注意が必要である。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）まりしまやま こうげん いおうやま しゅうへん [火口周辺警報（火口周辺危険）]

硫黄山や韓国岳北側に噴気は認められなかった。えびの高原（硫黄山）周辺では、火山性地震が時々発生している。

19 日～21 日にかけて実施した全磁力繰り返し観測では、火山活動に起因すると考えられる変化は認められなかった。

えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾に注意が必要である。

桜島さくらじま [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が 61 回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。

4 日 01 時 06 分と 30 日 06 時 00 分の爆発的噴火では、大きな噴石¹⁾が 3 合目（昭和火口より 1,300～1,800m）まで達した。噴煙の高さの最高は、23 日 20 時 36 分の爆発的噴火による火口縁上 4,000m であった。南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

16 日と 30 日に実施した現地調査では、15 日 23 時 02 分、30 日 06 時 00 分の爆発的噴火に伴って落下したと推定される最大約 2 cm の小さな噴石（火山れき）を桜島島内の鹿児島市有村町

付近（昭和火口より南側約 3 km 付近）と鹿児島市黒神町付近（昭和火口から東側約 3.5 km）でそれぞれ確認した。

二氧化硫黄の放出量は一日あたり 7 日に 3,600 トン、15 日に 5,000 トン、16 日に 2,300 トンを観測し、15 日は一時的に非常に多い状態であった。桜島で 5,000 トン以上の二氧化硫黄が観測されたのは、2012 年 10 月 29 日（5,700 トン）以来である。

大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学防災研究所のハルタ山観測総合坑道に設置している傾斜計²⁾及び伸縮計⁷⁾では、1 日頃から山体の膨張と考えられる変化が継続している。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾（火山れき⁶⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島さつまいおうじま [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では、火山ガスに注意が必要である。

口永良部島くちのえらぶじま [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

口永良部島では噴火は発生しなかった。火山性地震が時々発生し、火山ガスも多い状況で経過しており、引き続き、火山活動は高まった状態で経過している。

13 日から 16 日に実施した現地調査では、引き続き新岳火口の西側割れ目付近および南西斜面で噴気を確認した。赤外熱映像装置による観測では、新岳火口縁の西側、西側割れ目付近および南西斜面の噴気地帯で熱異常域を引き続き確認した。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び屋久島町が 19 日、20 日、22 日、23 日、24 日、27 日、28 日、30 日に、福岡管区気象台が 16 日に実施した火山ガス観測では、二氧化硫黄の 1 日あたりの放出量は、1,100～3,100 トン（2014 年 12 月：1000～1900 トン）と、多い状態で経過した。

火山性地震は 24 日に一時的に増加した。この

うち 23 時 14 分には、口永良部島付近の深さ 5 km を震源とするマグニチュード 2.2 の地震が発生し、屋久島町口永良部島池田で震度 1 を観測した。

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾に注意が必要である。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

諏訪之瀬島すわのせしま [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳火口おたけでは、爆発的噴火が 4 回発生したほか、噴火も時々発生した。7 日 19 時 13 分の爆発的噴火では、噴石が火口周辺 1 km までの範囲に飛散した。噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で、火口縁上 1,000m まで上がった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約 4 km）では降灰は確認されなかった。

25 日に実施した御岳火口の現地調査では、前回（2012 年 11 月 8 日）と比較して、御岳火口内の南東側に火孔が開孔していた。文化火口内の形状等に特段の変化はなかった。赤外熱映像装置による観測では、熱異常域に特段の変化は認められなかった。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要で

ある。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ
鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（平常）]
うんぜんだけ
雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
きりしまやま おほち
霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 3) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 4) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点があるが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 5) 爆発的な小噴火が間欠的に起こす噴火の様式。発泡した火山ガスが溶岩の中に閉じ込められ、それが時折突発的に開放されることで発生する。この噴火では、灼熱した溶岩が噴水のように火口の上に噴きあげられ、火山弾やスコリアが放出される。
- 6) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 7) 火山活動による地殻の伸び縮みを観測する機器。マグマ溜まりや火道内の圧力増加によって生じる火口周辺の変化が観測されることがある。